

元子さんへ

ラジオネーム：恵子

元さんが亡くなって三年が過ぎました。

元さんは父の妹で、私たちのおばさんです。でも、私達にとってはお母さんで、友達で、お姉さんでもありました。

いつもおばさんとは呼ばず、「元子さん」と呼んでいました。

我が家は私と妹、そして父の三人家族。

母は私が小学五年生の時に病死しました。

父は仕事が多忙な上、出張も多かったので、

私達姉妹は近所に住む元さんのお世話になっていました。

自分達の家より、元さんのお家にいる方が多い生活でした。

勉強も、年齢ごとの悩みも、季節のイベントも、すべて

元さんが元気いっぱい笑顔で付き合ってくれました。

父兄参観もちろん元さんが来ました。当時の担任の

先生は、元さんを実の母だと本気で思っていたくらいです。

父は「いやあ、元さんがいなかったら、とてもお前達をまじもじ

育てられなかったなあ。あいつは早く死ぬし、

俺には女の子供の事はさっぱりわからないし、

正直途方に暮れてたよ。」と言っていました。

元さんは「同じ一日・同じ一年なら楽しくないと思だよー！」

と言って、どんな時も「なんとかなるよ。

なんとかかましょっ。」といつも前向き。

私たち姉妹の結婚式では終始泣きっぱなし、夫達にも

「泣かせたら承知しないよ!」と宣言していましたね。

子供達も「元子おばあちゃん」と呼び、私達の母親の

役目を果たしてくれました。

元子さんの葬儀の時、あまり細かな事を語らない父が

「あいつも色々な思いはあったろうけど、俺を、いや、

お前達を見るに見兼ねて』よし、母親役をやりましょう』と

覚悟してくれた。あいつにとっても、お前達姉妹が

生き甲斐になって嬉しく人生を過ごしてくれた。

感謝している」と言ったのです。

元子さん…ううん…元子母さん、心を込めてありがとう。

父も、私達それぞれの夫婦も、子供達も、皆感謝しています。

リクエスト曲

＜ 夢の中へ / 井上陽水 ＞